

翁久允賞 太田久夫氏を推薦します。

翁久允の遺志を引き継ぎ、富山の文化振興に尽力された人を顕彰する「翁久允賞」に太田久夫氏を推薦します。その主な理由は、郷土に関する「書誌づくり」に多大な成果を挙げられ、郷土研究に資するところが甚だ大きいものがあるからです。「書誌」とは、「特定の人や題目についての文献目録」のことです。太田氏は富山県立図書館および高岡市立図書館に通算47年間（最後の9年間は嘱託）勤務され、図書館業務としてはもちろん、さらに積極的に郷土研究および広く一般の利用に供するため私的にも多くの書誌を作成してこられました。つまり、太田氏は富山県における書誌づくりの第一人者なのです。具体的にその状況を見ますと、まず、富山県立図書館において『富山県郷土資料総合目録』を1962年と'84年の2度にわたって作成されています。これらの労作により書誌というものの有益性や必要性が広く認められるようになりましたが、各人の著作や各題目の研究事情に精通していなければ容易に作成できるものではありません。太田氏は図書館業務のかたわら自ら発意して、あるいは他から乞われて[別表]に掲げたような数多くの書誌を作成されました。これらの文献目録は、ものを調べるための基本的な情報として得難いものであり、研究者のみならず広くレファレンス等に活用されました。太田氏の書誌づくりは、まさに郷土研究における“地の塩、のような役割を果たしたものと考えます。

太田氏のそのほかの業績は富山県内および高岡市などでの各種研究団体における活動ですが、太田氏の博識と旺盛な奉仕の精神によりいずこにおいても重要な役割を果たされています。その主なものは、富山県郷土史会、越中史壇会、近代史研究会、二上山総合調査研究会、千保川を語る会などです。特に富山県郷土史会においては長らく事務局および会長として、郷土研究の普及に尽力されました。また、高岡市における二上山の総合調査や千保川における活動は市民有志の研究意欲をまとめる形で会長に就き、活動の成果としての何冊もの冊子をまとめられました。

以上のように太田久夫氏の業績は、なべて郷土富山の文化振興に著しく貢献されたものと言えます。

2017年10月7日

須山 盛彰（富山県郷土史会・富山近代史研究会）

[別表] 太田久夫氏が作成に関わられた主な書誌一覧

書 誌 名	発行者または収載氏誌等	備 考
『富山県郷土資料総合目録』1962年版	富山県立図書館	館務として 作成
『富山県郷土資料総合目録』1984年版	同 上	
『廣瀬誠著作目録』1965年		越中央壇会の 協力あり
『廣瀬誠著作目録』1982年		
『村上清造先生著述目録』		県立・富山市 図書館の協力
「南弘氏文献（抄）」	『南弘先生・人と業績』所収	
「長島勝正著述目録」	『長島勝正先生の人と業績』所収	
「岩倉政治著述目録・参考文献目録」	県芸文協『とやま文学』3号所収	
「高島高・田中冬二・滝口修造各著述目録・参考文献目録」	同 4号所収	
「源氏鶏太著述目録」	同 6号所収	
「柏原兵三著述目録」	同 7号所収	
「木崎さと子著述目録・参考文献目録」	同 23号所収	
「萩野卓司著述目録」	同 26号所収	
「高峰讓吉文献目録」	北陸医学史学会『北陸医史』38号所収	
「寺畑喜朔・正橋剛二著述目録」	同 40号所収	
『高岡高等学校同窓会会員著作目録』1～3	(創校90周年、100周年、110周年に)	高岡高校刊
「散村研究文献目録」	砺波散村地域研究所開設の際に	
「越中万葉研究文献目録」	高岡市万葉歴史館設置の際に	
「富山県参考図書目録」	『角川日本地名辞典』16 富山県 巻末	
「北陸修験道関係文献目録」		

「北前船研究文献目録」		
「横浜事件関係研究文献目録」		
「二上山関係研究文献目録」	『越中二上山と国泰寺』所収	
「堀田善衛関係文献目録」		
「富山県民俗関係文献目録抄」		

(注) 本表は、県郷土史会刊『郷土研究を志す人のために』に執筆された太田久夫の「一図書館職員の手記づくり」より抽出・作成したものである(須山)。

推 薦 状

太田久夫氏は、図書館勤務の経験もいかして、富山県郷土史会・越中史壇会・富山近代史研究会などに参加し、郷土の歴史・文化の調査研究と普及に尽力してこられた。

富山県郷土史会では、郷土史の調査研究、講座、史跡めぐりなどともに、機関誌『郷土の文化』を30年以上にわたり発刊してこられたが、太田氏はその中心メンバー（最後は会長）として活躍された。同誌に登載された毎年の県ゆかりの文献目録は貴重なデータとなっている。

高岡市においては、市民に愛される二上山を、専門家と市民が協働で、歴史・自然・文化など多方面から調査し、10年間の活動成果を『二上山の自然と文化』（平成23年）としてまとめられ、また、高岡開町400年（平成21年）を記念して、町なかを流れる千保川にまつわる歴史や人々の思いを、市民等に呼びかけ約120人の寄稿を得て『千保川の記憶』としてまとめられた。太田氏は、両活動のリーダー役（会長）として、会員の指導と活動の取りまとめに主導的役割を果たされた。多くの歴史資料・古文書の調査を指導され、明治・大正期の毛筆書きの行政文書を翻刻・整理し『高岡市公文録』にまとめられた。

現在は、高岡市立博物館を親しむ会の会長として、市民に親しまれる博物館づくりに応援をいただいている。

まちめぐりなど現地活動にも率先して参加され、実直な人柄と合わせて、多くの人々から敬愛され、市民レベルを含めた文化活動の中心的存在として活躍されている。

推薦人 高岡市立博物館長 新井雅夫